

「尖閣1945」

太平洋戦争末期・・・

尖閣諸島で起きた悲劇を映画化



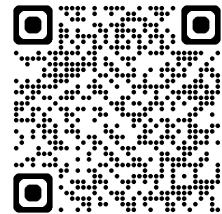
沖縄県石垣市

人々を救ったのは、真水をたたえた日本の領土だった
「知られざる戦争の真実 知らなければならぬ戦争の真実」

この映画は、極限状態の中での、勇気と優しさ、
日本人の誇りを描いた門田隆将氏のノンフィクションを映画化するものです。

そして、尖閣、大洋の自然が、国や人種に関わりなく人類の命を慈しむ存在であることを描きます。

現在、全世界から注視されている尖閣諸島を舞台にした奇跡の事実の映画を製作します。



映画「尖閣1945」公式サイト



富田健太郎
(金城嘉吉役)

羽田美智子
(花城ヨシ役)

2026年 沖縄県先行公開/全国公開



太平洋戦争末期、沖縄本島陥落から一週間後。米軍の上陸を恐れた石垣島の人々は、2隻の船で台湾への疎開を開始する。しかし、海上で米軍機に攻撃され1隻は沈没。もう1隻もエンジンを損傷し、かつて日本人が暮らしていた真水のある魚釣島に漂着。船は流され、上陸した人々は飢えと病に次々と倒れていく。このまま、島で死を待つしかないのか。



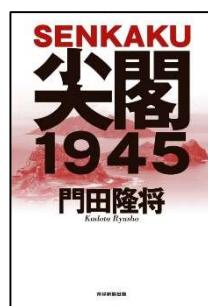
エグゼクティブプロデューサー
中山義隆 石垣市長

太平洋戦争末期、石垣島から台湾に向かっていた疎開船が米軍の攻撃を受け、多くの犠牲者が発生した「尖閣列島戦時遭難事件」の史実、そして、人々を救ったのが真水をたたえた日本の領土であったことを多くの方々に知っていただくことを目的に、門田隆将氏の著作『尖閣1945』（産経新聞出版）の映画を製作します。

「尖閣列島戦時遭難事件」とは、太平洋戦争末期の1945年7月、多くの女性や子ども達を乗せ石垣島から台湾へ向かっていた2隻の疎開船、第一千早丸と第五千早丸が米軍機の攻撃を受け、第五千早丸は沈没、第一千早丸もエンジンの損傷により、尖閣諸島の魚釣島に漂着した史実であります。魚釣島などには、明治時代から最盛期248人が住んでいた「古賀村」があり、鰯節工場などで営々とした日本人の生活がありました。そのため、真水があったことから、しばらくの間は人々は生き長らえることができましたが、1940年に鰯節工場は既に閉鎖されており、無人島となっていたため食料がなかったことから、餓死者が出る事態となってしまいました。そこで、生き残った人々は、木造船を作り、8人が決死隊を結成して石垣島に助けを求めたことにより救助された悲劇であります。

魚釣島には、今も日本人の遺骨が多数埋まっています。生と死をめぐる感動ドラマが沢山存在します。

現在、全世界から注視されている尖閣諸島を舞台としたノンフィクション作品を映画化することには、大変大きな意義があるものと考えております。尖閣諸島で起きた史実を一人でも多くの方々に知っていただけることを切に願っています。



原作／門田隆将
(産経新聞出版 刊)



監督／五十嵐匠

(お問い合わせ先)

石垣市役所尖閣諸島対策室 0980-82-1350